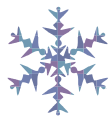


子ども図書研究室だより



できごと

令和元年11月11(月)12日(火)、国立国会図書館国際子ども図書館で令和元年度「国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座」が開催されました。この講座は毎年、全国の児童サービス担当の図書館員、児童書研究者、児童書出版関係者等が対象となり開催されます。

今回は「絵本からヤングアダルト文学まで」をテーマに様々な話を伺うことができました。

講師は 白井澄子氏（白百合女子大学教授、国立国会図書館客員調査員）金原瑞人氏（翻訳家・法政大学教授）細江幸世氏（編集者・白百合女子大学非常勤講師）佐々木由美子氏（東京未来大学教授）の4名です。その中から、細江氏の講座「多彩なテーマで幅広い読者をつ

なが絵本の魅力」について一部報告します。（2ページ目にて、概要を紹介いたします。）



子ども図書研究室を使ってみよう！

絵本・児童書を全点収集している「子ども図書研究室」でどんなことができるのか紹介します。

全点収集だから読み比べができる

◆同じタイトルでもこんなに違う！

『あかずきん』のタイトルで本を探すと絵本は52冊。その本がすべて同じかと言えばそうではありません。そもそも原作もグリムとペロー、2人いることを知っていますか？**訳者**により表現の仕方も変わってきますし、**イラスト**も時代や出版された国によりずいぶん違いがあります。また、**対象年齢**によっても絵本は様々な違いが生じ、同じタイトルでもずいぶん印象が変わってきます。

絵本を選ぶ際、対象になる子どもたちがいます。「このタイトルならこんな話だろう」という先入観から中身を見ずに絵本を渡してしまうと、本来その子が物語から得られるだろう楽しさ、嬉しさを半減させてしまうことがあります。



本を選ぶ際は、昔ながらの有名なものだからと思いきや、その物語の良さをちゃんと伝えられるものなのか、その子に合ったものなのか、中身を確認して渡すことが大切です。

◆こんなグループで読み比べてみよう

訳違い	『ミッフィーのてがみ』角野栄子訳 『うさこちゃんのてがみ』松岡享子訳 『大きな木』本田錦一郎訳 『大きな木』村上春樹訳
同タイトル	『あかずきん』 『ももたろう』 『シンデレラ』 『さるかに合戦』
同テーマ	『きょうだい』 『かいもの』 『ともだち』 百科事典の同ジャンル（恐竜・虫など）

読み比べることで、その本の持つ魅力が分かり、またそれぞれの良さを知ることで、個々の子どもに合わせた本のチョイスができるようになります。ぜひ自分のスキルアップやグループの勉強会などで活用してください。

テーマ探しや本の検索などで困ったことがあれば、担当職員が相談に乗りますので、ぜひお問い合わせください。

「多彩なテーマで 幅広い読者をつなぐ絵本の魅力」

細江 幸世氏

■ 絵本とは

現在、様々な形態やテーマを表現できるツールとして赤ちゃんから大人まで幅広い読者に広まっている絵本。世界最初の絵本はコメニウスの『**世界図絵**』(1658 年刊)と言われており、その形態は、木版画の絵に説明が文章として書かれていたものだった。それを見ると、ひとつの絵にテキストの説明文が付いており、子どもを対象としたものを絵本と定義づけているようだが、子どもの定義も時代・国によって様々であり、また現在は、**作ること自体を目的としたもの、知識やテーマを得ること、シンプルに子どもに楽しんでもらうこと**を目的としたものなど、多種多様な絵本が出版されている状況である。

■ 絵がいい本とは？

最近では大人受けするお洒落でカッコいい絵本が多くみられる。絵本業界が大人も利用対象とみなしはじめたことと広告イラストレーターなどが絵本を書くようになったためだと思われる。広告業界は限られた範囲で、物語やテーマを的確に表現することは得意分野にあたるが、そういった絵は**時代色が強く、長期間使えない**。

また、本を選ぶときには、**それまでその作者が描いた作品の傾向**をみることも重要。子どもは内容よりも「**絵**」で本を選ぶことが多く、その作者のその1冊は良くて、これ以前の作品、これ以降、この作家が出すであろう作品の系統もその子に合っているかどうか考えて選ぶ必要がある。

■ 最近の出版状況

「**ビジュアル図鑑**」や、図鑑では無いが「**大型でわかりやすい本**」に人気がある。「**ノンフィクション**」の分野は難民問題を取り扱ったものが増えており、日本ではあまりなじみが無いが、海外ではクラスに難民の子がいるのは当たり前のため、身近なテーマになっている。



また近年は「**フィクション**」の勢いが弱くなっており、その分、過剰な説明(絵や文章)で物語を補強する傾向がある。その他**グラフィックノベル**などのコマ割りの多い本も増え、大人の読者の利用も多くなってきた。



■ 絵本の多様性

最近の「**赤ちゃん絵本**」は「**聞く・読む**」だけではなく、行動につながる「**しかけ**」が盛り込まれたものもあり、玩具と絵本を繋ぐ存在にもなっている。「**文字なし絵本**」は言語が不自由な人達と同じ本を楽しむことができ、それにより会話が進み言葉の獲得にもつながる。「**科学絵本**」は読み聞かせのできる物語性のある本が増えてきたが、今まで絵で表現していた部分が、技術進化のため高画質で精密な写真画像が使われるようになった。「**伝記絵本**」も最近増えてきたが、これはアメリカの教育現場でノンフィクションの本を読むよう指導された影響がある。最近では偉人以外の面白い伝記も増え、社会の多様性を知る事や女性のライフモデルの参考にもなっている。また**重いテーマ(ヘイト・暴力・差別・戦争)**は、読み聞かせには向かないが、グラフィカルで寓話的に見せることによって、知識として子どもに知ってもらうことができるため、手に取れる所に置いてもらいたい。

■ その他

親のため健気にがんばる子が登場する絵本を見ることがあるが、がんばっても失敗してしまう姿は大人目線では微笑ましいが、主人公に感情移入している子どもにとっては面白くない。そういったものは大人の大変さを子どもが理解し手伝ってくれるという、親の夢が表現されているだけ。面白いと思っても、**子どもの目線でも面白いのか、子どものために書かれている本なのか**と内容を精査する必要がある。

今「**絵本**」は子どもの本というだけでは無く、本のいち形態をいうようにもなってきた。**誰に対して作られたものなのか？**子どもに関わっている方たちは、今、目の前の子どもに対してその本がふさわしいか評価し、見極める目をもって選書をしてほしい。(水井)



静岡県立中央図書館 児童青少年サービス研修

令和元年10月3日(木)、県立中央図書館で公立図書館職員を対象とした「児童・青少年サービス研修」が開催されました。今年度は「**子どもの本の紹介文の書き方**」と題し日本図書館協会児童青少年委員会委員、元関西大学講師の 川上博幸氏 に講義、演習を行っていただきました。

まず紹介文の読み手は、その本を実際に見たことの無い場合が圧倒的であり、読んでみたいと思わせるには、紹介文の中で**その本のイメージが浮かんでくるような文章・表現**が必要になってくる。

そのために重要なのは、対象の**本のことをしっかりと把握**すること。本の装丁から受ける印象、挿し絵の有無、全体の構成、本の内容だけではなくこういった本を形作る材料も、その本を表現する一部。それらを把握し、どんな点や、どの箇所をどう魅力的に取り上げたら、ぴったりの読者(想定読者)に**この本の良さが届くだろうかと考えて書くことが大切**と説明されました。そういった書く上での基本姿勢から、実際の記述方法まで詳しく教えていただき、改めて、紹介文の重要性を知ることができました。

今回は子ども向けの紹介文についていくつか紹介された注意点を紹介します。

子ども向け紹介文の注意点

- 1、発達に合わせた興味を考慮し、子どもに通じる「ことば・用語」で表現する。
- 2、ストレートで、具体的に記述・表現する。
- 3、内容は安易に一般化せず、勝手に抽象化したり型にはめようとしない。
- 4、一文の長さを長くしすぎない。特に主語に長い修飾句をつけない。
- 5、主題図書ではモノ・コトの説明に正確性を出すために学術用語を使っても良い。
- 6、小学校中学年以下の紹介文では、子ども向けの表現、理解力に配慮して具体的に書く。また、文章だけでは無理がある場合、絵や図、イラストを加えても良い。
- 7、文章の巧拙よりも、紹介文書き手の「意」を伝えることの方が重要。伝えたいことを大切にしよう。

今回の演習では、研修生が書いた紹介文に川上先生からの講評をいただきました。研修後に書き直したものを下記に例として挙げましたので、注意点がどのようになったのか確認してみてください。

また、紹介文についてのさらに詳しい内容は川上先生著作の「**あの本この本どんな本 子どもの本の紹介文の書き方**」(児童図書館研究会近畿支部発行・当館所蔵)にて書かれていますので、ぜひ参考にしてください。(水井)

紹介文:『グレートジャーニー探検記』 関野 吉晴/著 徳間書店 2013年6月刊

人類はおよそ 700 万年前^①にアフリカで誕生した。最も遠い 南アフリカ^②まではどのような旅だったのだろう。著者はこの旅を逆ルートでたどる「グレートジャーニー」に挑戦した。海や氷の上、熱帯雨林、砂漠の中を、徒歩や自転車、カヤック、犬ソリ、時にはラクダも使って^③ 大昔の人々と同じように^④暑さや寒さ、風やにおいを感じながら進む。たくさんのカラー写真からは、きびしい旅の様子や自然、そこにくらす人のくらしがよくわかる。(200字)

講 評

- ① 人類誕生については諸説あるので、700万年前と言い切ってしまうのは危険。特に知識の本は紹介する本に書いてある事だけでなく、自分でも調べることが大切。
- ② 南アフリカでなく、南アメリカ。間違った情報を載せないように確認をきちんとすること。
- ③ 海とカヤック、氷の上と犬ソリなど具体的にセットにして書いた方がわかりやすい。
- ④ 「大昔の人々と同じように」は言い過ぎ。
- ⑤ この本はダイジェスト版なので、他の本へと繋ぐ工夫もほしい。

書き直し

人類はおよそ700万年前にアフリカで誕生したとされる。もっとも遠い南米まではどのような旅だったのだろう。探検家・医師の著者は人類のこの旅を逆ルートでたどる「グレートジャーニー」に挑戦した。海や川をカヤックで、シベリアの氷の上を犬ソリで、ゴビ砂漠をラクダに乗り、極暑・極寒、風やにおいを感じながら進む。本書は大小のカラー写真で旅を概観するダイジェスト版。著者の「偉大な旅」を体感したい人は15巻に挑もう！(199字)

新着資料から

絵本



『火 あやかし』

飯野 和好／絵と文

小峰書店
2019年6月

夜の山道を旅する直四郎と小四郎の兄弟は、行く先に火を見つけて進むと、急いで消されたような焚火があった。再び燃やして粟もちを焼き、火の心地よい暖かさにうとうとしたとき、闇の中から何やら怪しい音が迫る。はっと我に返り、逃げ下りた兄弟が里近くで振り返り見上げた山には、急いで消したはずの火がまた…。京都から丹後への山街道にたびたび現れたという火の話は、作者の幼い頃の記憶が元になっている。地の文に印をつけ兄弟の会話と区別しており、闇からの擬音が怖い。
【4歳から】(宮崎)

絵本



『ヒキガエルが
いく』
パクジョンチェ
／作

申明浩／訳
広松由希子／訳
岩波書店

2019年6月

トンと現れたヒキガエル。このあと、とても可愛いとは言えないヒキガエル達が草むらや野原からワラワラと現れ出る。群れは、捕食しようとする動物がいる道も、金網の柵も、車もものともせず、ひたすら池に向かって進んでいく。それは生命を次につなげるため。

話は太鼓の音と共に進められる。絵と太鼓が相まって迫力を感じる。韓国の仏教では、太鼓は動物のために鳴らされるとのこと。巻末には、著者の詩が載せられている。

【0歳から】(青山)

知識



『いきもの漢字図』

えざき みつる／作

あすなろ書房
2019年5月

鶯、雲雀、啄木鳥…なんて読む？見開きに生き物と漢字が所狭しと描かれたページをめくると、次ページは同じ図にふりがながふられ、「うぐいす」「ひばり」「きつつき」と答えが。木版画家、陶作家でもある作者の周りの好きな生き物を集めた漢字図は、魚漢字図、鳥漢字図、野菜漢字図など全7図。巻末には各図のうち数種の名前の由来や生態などの簡単なコメントも。絵は特徴をよくとらえてわかりやすい。大半は学校で習わない難読漢字だが、絵と漢字を見ながら読み方を想像するのが楽しい。

【小学校中学年から】(眞子)

文学



『11番目の取引』

アリッサ・
ホリングスワース／著
もりうちすみこ／訳

鈴木出版
2019年6月

2人きりでアメリカに来たアフガニスタン難民の少年サミと祖父。その祖父が大事にしていた伝統楽器のルバーブが盗まれてしまった。盗品はオークションサイトで売られていて、買い戻すには700ドルが必要と言われる。期限は4週間。サミはルバーブを取り戻そうと、友人や周りの人に助けられながら物々交換をし、お金を手に入れるための取引を重ねる。故郷での幸せな日々と、その後のつらい経験がストーリーの中で語られる。現地へ赴き文化の研究もした米作家のデビュー作。

【中学生から】(眞子)